

# Interview 首長

北海道厚沢部町長 渋田 正己氏

## 高齢者移住受け入れへ まず地域ケア体制充実

**北海道厚沢部町** 北海道南西部の檜山管内の町で、人口は4173人(10月時点)。主産業は農林業。ジャガイモのメーカーの国内生産発祥の地として知られる。ヒバの北限、トマトの南限が混在する自然豊かな地だ。

### ——移住促進に積極的に取り組んでいる。

高齢化が進展する中、若い層をどう町に引っ張り込むかが課題。7年ほど前に「ちょっと暮らし」という制度をつくって4戸の住宅を提供している。関東・関西から避暑地として来ており、長い人では1カ月半ほど滞在する。回数を重ねる中で「ここがいい」と思ってもらい、移住につながればと考えている。

「素敵な過疎づくり株式会社」という会社をつくって移住促進に取り組んでいる。逆転の発想で、過疎でなければできないことに取り組む。まず介護付き老人ホームを誘致した。

東京・八重洲に10月開設された民間の「生涯活躍のまち移住促進センター」に町のブースを出している。移住者の受け入れに向け40～50戸の住宅整備も検討している。場所はすで

に確保している。

### ——病院改革に取り組んでいるのはなぜか。

厚沢部町の高齢化率は約48%と、すでにほぼ2人に1人が高齢者の状況。在宅福祉・医療が重要になる。現在の国保病院はこうした取り組みをできる体制になっていない。

介護や医療の整った高齢者向けの入居施設が町内に少ない。そういう人たちが町外の都市部に流出しかねない。国保病院を地域包括ケアの拠点にして、高齢者を地域で見守る体制をつくらなければならない。

### ——給食センターの新設を計画しているのは。

高齢者には昼に給食を届けている。夜にもほしいという要望が強い。独居高齢者、老々介護などの支援につなげたい。現在、江差町、上ノ国町と3町でセンターを運営しているが、それを実現するには町として給食センターを整備する必要がある。

いまは保育所が町内に分散している。これを統合してこども園を開設するとともに、隣町にバスで通っている幼稚園児も地



しぶた・まさみ 1943年北海道室蘭市生まれ。62年北海道立江差高校卒、厚沢部村(当時)役場へ。国保病院事務長、農林商工課長などを歴任し、95年助役。2007年町長に初当選。現在、3期目。移住や2地域居住の推進に向け、09年、町が出資してまちづくり会社「素敵な過疎づくり株」を設立し、社長も務めている。

元で育てる体制にしたい。そこに給食センターを整備し、高齢者だけでなく、こども園や小学校にも提供する方針だ。2017年にはスタートしたい。

### ——介護学校の開設も検討している。

介護人材を養成したい。2年間、教育をして資格をとってもらい、地域での就業促進にもつなげたい。広域事業で学校をつくり、当町が中心になって運営する形を想定している。1学年40人規模で、全寮制を考えている。鳥根県ですでに先行例がある。様々な施設とも連携していけば、実習の場としても適していると考えている。

現在、介護を学ぼうとすれば高校卒業後に町外に出て行かざるを得ないが、こうした若年層の流出を抑え、地域に定着してもらうことにもつながる。

(聞き手は副編集長

川上 寿敏)